

権利擁護／虐待防止

事例検討編②

③「意図的な虐待行為」と「非意図的な虐待行為」

この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、虐待には、意図的な虐待と、本人は意図せずとも周りから見ると虐待である「非意図的な虐待」があることに気がつくことをねらいとする。

研修の進め方①

まずは、次の事例を読み上げます。

事例（ある職員Aさんの声）

Aさんはパートとして週に4日特別養護老人ホームで働くことになりました。主に認知症の人が入居しているフロアで、入浴介助と昼食の食事介助が主な業務です。このフロアでは、新卒の若いスタッフと年配のベテランのスタッフが半々くらいの割合で働いています。

食堂で利用者の食事介助をしました。その時にこちらを向いて食事をしている車イスのBさんがいました。Bさんの斜め前にはベテランスタッフのCさんがBさんの様子も見ながら、他の利用者の食事介護をしています。Bさんは自力摂取で食事をしていました。Bさんは食堂の壁を背にして座っています。よく見てみると、Bさんのすぐ後ろに壁があるように感じました。

近くの新人スタッフのDさんに尋ねると、「Bさんはすぐに車イスから立ち上がろうとするので、テーブルで立ち上がれないように押さえているんです。前に車イスから立ち上がろうとして転倒したことがあって、家族からは立ち上がれないようにしてくださいと頼まれています」ということでした。それで、車イスで後ろに下がろうとしてもすぐに壁にぶつかって動けないようにしてあるんだと理解できました。

事例(続き)

居室ではどうしているのかDさんに尋ねると、「うん、Bさんの部屋はナースセンターの真向かいの部屋なんですけど、すぐに動いたかどうかがわかるように掛け布団の足元やくつに鈴を付けているんです。鈴の音が聞こえたら、大急ぎでBさんの部屋に向かいます。本当はセンサーマットか何かがあればいいんだけど、今は他の人に使われちゃっているので、鈴で対応しています。

Bさんが動こうとしたようです。ベテランスタッフのCさんの「ちょっと待ってて、まだこっちのご飯が終わってないから。もうちょっとで終わるから、それまで待ってて。終わったら、テーブルをどかしてあげるから。待っててって。だから、終わったらどかしてあげるからって言うてるでしょ！」という大きな声が聞こえてきました。

研修の進め方②

次の質問を参加者に投げかけます。参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

①この事例における「意図的な虐待行為」は何だと思いますか？ 意図的な虐待行為とは、職員Cさんが虐待行為だとわかっている行為を言います。

※うまく答えが出てこない場合は、「前回と同じような答えでも構いません」と投げかけします。

②この事例における「非意図的な虐待行為」は何だと思いますか？

※うまく答えが出てこない場合は「Cさんは『認知症に対して、
どういう認識を持っていると思いますか？』と投げかけます。

個人ワーク(5分)

職員Cさんはどのような虐待をしたと
思いますか？

職員Cさんがしたと思われる虐待行為について、整理しましょう。

1)この事例における 意図的な虐待行為は何だと思いますか？

意図的な虐待行為：虐待したことを介護者が認識している虐待行為のこと。

2)この事例における 非意図的な虐待行為は何だと思いますか？

非意図的な虐待行為: 介護者に虐待のつもりがなくても結果的に虐待を行ってしまっている行為のこと。

研修の進め方③

参加者に答えてもらった後、グループワークに入ります。

グループワークのテーマ・・・「この事例において無意識のうちにやってしまった虐待行為について考える」

・参加者はそれぞれの意識的にやったと思われる虐待行為と無意識のうちにやってしまったと思われる虐待行為について意見を出し合い、話し合っていきます。

☆このグループワークのねらいは、虐待行為だとはと考えずにやってしまった行為について、それが虐待行為であったかどうかと気づくということです。それくらいなら大丈夫だろうと勝手に考えていたり、そもそも仕方がないことだと割り切っていたことだったりしていなかったかと自分自身の考えに目を向けていくこととなります。話し合いを進めていく中で、虐待か否かの線引きを無意識のうちに持っていたかどうか気づいていくこととなります。

そのために、「正解は〇〇だ」ということを決めていくことではありません。

*グループワークをしている中で、話題が全く違うものへとずれていかなければ、話し合っている内容を修正する必要はありません。

グループワーク(10分)

この事例から、職員Cさんが気がついていない虐待行為があるか話し合ってみましょう。

研修の進め方④

- ①話し合いが終わったら、各自でワークシートに「非意図的な虐待行為」を記入してもらいます。
- ②記入してもらったら、それを一人ひとり発表してもらいます。
- ③ワークシートを回収して、全員の考え方を整理して、フィードバックして、研修は終了です。

個人ワーク(5分)

ワークシートに非意図的な虐待行為を記入しましょう

この教材を終えるにあたって

職員が虐待行為であることを知りながら行う「意図的な虐待」は極めて悪質です。

しかし、非意図的な虐待は、職員が虐待だと気がついていない分、改善するのは簡単なことではありません。

職員同士が権利擁護の意識を高くもって、現場で相互チェックすることが必要です。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター
理事長 五十嵐教行